劇団きづがわ第７５回公演（OSAKA劇フェス2017）

愛と死を抱きしめて

そこにはたしかに幸せがあった。

作・高木　達
演出・林田時夫

◇2017年12月16日（土）・17日（日）　16 土 14:00&18:30　17 日 14:00開演

◇リバティーおおさか（大阪人権博物館）JR環状線芦原橋駅下車徒歩約10分

◇前売券　一般3,000円／シニア（65才以上）2,500円
U30・障害者2,000円／夫婦割引5,000円
（当日はいずれもお一人500円UPとなります）

劇団きづがわ第75回公演

大阪劇団協議会演劇フェスティバル（NO45）

愛と死を抱きしめて

ものがたり

時は、1964年、東京五輪音頭が鳴り響く。ここは、福島の海のチベットと言われた大熊町の寒村の集落。舞台は、夢みるみっちゃんこと小畑道代（18歳）の家。道代は幼くして母を亡くし、父・太一は出稼ぎの身である。道代と、中学の同級生の仲良し3人組の藍子たちとの村芝居の稽古で幕が開く。

常盤重一の母の野辺送りが今にも始まろうとし、隣の道代の家では、「精進落とし」の料理作りに村の女衆が集まり、賑やかなことこの上ない。そこへ、原子力発電所の誘致は決まったものの、職員に給料も払えず、金策に走り回ってきた町の助役・鉄太郎が腹痛に耐え切れず駆け込み、炭鉱に出稼ぎに行っていた喪主の重一が、若い出稼ぎ仲間の河野真人を伴い帰ってくる。妻の孝子は、「もう出稼ぎに行かないで」と、夫の帰りを喜び、村には珍しい若い男性の出現に、道代の胸はときめく・・・。

これは、福島県の浜通り中部、貧しい土地にしがみつき、たくましく生きる人々・・・。乏しい物資をやりくりして生活を支え家を築く女性たちの物語である。

1964年の東京オリンピックから炭鉱の閉山、原子力発電所の建設と運転開始と、時代の波が地域を、町の人々を潤す。

だが、愛情豊かで絆に満ちていた人々の営みは、貧しくとも美しい日々は、失われてしまった。そしてあの大震災が起き、さらに時はめぐりて・・・。原発を受け入れた村の男や女たちの暮しや営みがどう変わりゆくのか？

この作品は、高木達さん（青年座演出家）が、東日本震災以来、故郷いわきに帰り、いわきの演劇を愛する仲間達と共に創り上げた『東の風が吹くとき』に続く《フクシマシリーズ》第2弾！女たちのバイタリティー溢れるオカシクも哀しい愛の物語である。

スタッフ

作	高木　達
演出	林田時夫
舞台監督	北尾利晴
舞台美術	和田雅子
照明	新田三郎
音響効果	照島佳宏
歌唱指導	加藤光一
制作	和田雅子

登場人物（キャスト）

みっちゃん	小畑道代（みちよ）	林田　彩
まこ	河野真人（まこと）	寺島　由浩
太一	小畑太一　道代の父	島本　拓治
じゃっちゃさん	常盤重一（じゅういち）	山田　一巳
ちちばんど	常盤重孝（しげたか）息子	
たそがれアイコ	常盤孝子（たかこ）	魚住　美春
たぬたぬオタマ	宗像藍子（道代の同級生）	成田扶美子（フリー）
ちんちろくにこ	青木玉緒（同右）	平山　憲子
ちんくま	熊沢国子	曽我さとみ（フリー）
かんかじおまさ	熊沢幸吉（その夫）	河原　正隆
いでで鉄ちゃん	熊沢正子	橋野　悦子
大元師	熊沢鉄太郎（その夫）	坪井　正太
たこみそマダム	大巌テル	和田　雅子
ユリ	原田瑞恵	西尾　純子
	原田百合子（瑞恵の姪）	上藪　舞風
	三瓶時子	山村　八子
	木村勝利	小森　健司
介護士	中村友里恵	橋本　依子
イズミン	西岡泉	上藪　奏咲
アナウンサー（声の出演）		大阪府職員演劇研究会

《愛と死を抱きしめて》

プロローグとエピローグがある三場

第一場　葬　式　1964年10月　東京オリンピック開幕

第二場　出産とプロポーズ　1969年7月　原発第一号機試運転開始

第三場　結婚式　1971年3月　原発運転開始の翌日

リバティーおおさか略図

JR環状線「芦原橋駅」下車、南へ約600m
JR環状線「今宮駅」下車、西へ約800m
南海汐見橋線「木津川駅」下車、東へ300m

リバティおおさか（大阪人権博物館）
〒556-0026 大阪市浪速区浪速西 3-6-36
TEL:06(6561)5891

往時の東京電力福島第一原子力発電所

福島県いわき発！『東の風が吹くとき』（高木達作）に続く《フクシマシリーズ》第2弾～愛と感動のドラマ！

劇団きづがわ　〒551-0031 大阪市大正区泉尾 4-2-7　TEL&FAX 06-6551-3481（携帯）090-7359-7335